

しからず、見物などは折によるべし、御身を重くもたせ給へと申は、我身を軽く振廻て諸侍に近付、人人におもひ付れ、朝家をも守護し奉らむと思ふゆへなりとぞ仰られける、此言は凡慮の及ばざる所とぞ感じ申されし也、

〔今川記三〕今川了俊同名仲秋え制詞條々

- 一 不知文道武道終に不得勝利事、
- 一 好鵜鷹逍遙樂無益殺生之事、
- 一 小過輩、不遂糺明令行死罪事、
- 一 大科輩、爲最負沙汰至宥免之事、
- 一 貪民、令沒倒神社、極榮華之事、
- 一 掠公務重私用、不忍天道働事、
- 一 先祖之山莊寺塔敗壞、莊私宅事、
- 一 令忘却居父之重恩、猥忠孝之事、
- 一 不辨臣下善惡罰不正之事、
- 一 企過亂兩說、以他人愁樂身之事、
- 一 不知身分限、或過分、或不足之事、
- 一 嫌賢臣、愛佞人、致非分沙汰之事、
- 一 非道而富、不可羨、正路而衰、不可慢之事、
- 一 長酒宴遊興勝負忘家職之事、
- 一 迷己利根、就萬端嘲他人事、
- 一 客來之時、構虛病、不能對面之事、